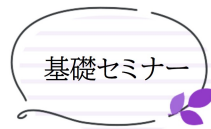
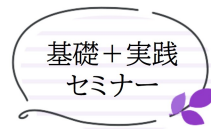


企業担当者の方にはぜひ受講して欲しい内容ではありますが、就労支援機関(障害者就業・生活支援センター、市町村就労支援センター、就労系障害福祉サービス事業者等)の職員の方、また相談支援事業所、医療機関、行政機関の職員の方々にもご参加いただける内容となっております。ぜひお申し込みください!!



<開催日>
令和5年12月22日(金)
<会場>
大宮ソニックシティ 905会議室
<参加人数・参加費>
50名・3,000円



<開催日>
令和5年12月23日(土)
<会場>
大宮ソニックシティ 905会議室
<参加人数・参加費>
24名・6,000円

● 「令和5年度第68期JC-NETジョブコーチ養成研修(東京)実践課程」開催

令和5年9月8日～10日の3日間、大妻女子大学千代田キャンパスにて令和5年度第68期JC-NETジョブコーチ養成研修(東京)実践課程が開催されました。約60名の方が受講されました。当法人からは代表の若尾が研修統括・講師を務めた他、職員1名が受講生、JC-NET事務局として、4名の職員も現地にて参加をいたしました。



今年度から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことにより、「課題分析、システマティックインストラクション(わかりやすく教える技術)」の実演演習が復活しました。受講生のみなさんが障害者役のトレーナーを相手に指示の4階層を使い分けながら、必死に作業を教える姿が印象的でした。また、今回はモンゴル国から8名の受講生が参加されました。普段はモンゴル国で手話通訳や特別支援学校の教諭をされているとのこと。講義や演習の他、交流会が開かれ、親睦を深めることができました。第70期の養成研修の申し込みが11月下旬からはじまります。ご興味のある方はお申し込みください。

浦和事業課 戸倉

法人実績報告

期間：令和5年4月～8月

(東松山第1事業課 手塚)

(単位:名)

	新規障がい者数				合計	総数
	知的	身体	精神	その他		
センター登録者数	6	2	6	1	16	817
就職者数	16	2	11	2	31	487
実習者数 (のべ件数)	6	0	10	1	17	
離職者数	5	1	6	0	12	

発行責任

〒355-0028
埼玉県東松山箭弓町1-11-7
ハイムグランデ東松山2階
特定非営利活動法人
東松山障害者就労支援センター
代表理事 若尾勝己

<http://www.zac-saitama.org>

0493-24-5658

r-ship-c.honbu@blue.ocn.ne.jp



vol. 63

発行日：2023年11月7日

NPO 法人 東松山障害者就労支援センター

ZACNews

発行：特定非営利活動法人東松山障害者就労支援センター
電話/FAX (法人本部)：0493-24-5658

ザックニュース 2023年 秋号



活動報告

特集：タイ国視察記

去る7月30日から8月4日の正味4日間(移動日2日分を除き)、NPO法人ジョブコーチ・ネットワークが助成いただいている東京ロータリークラブ様の助成事業・国際協力事業の一環として、タイ国内の障害者雇用企業の視察やタイで実施されているジョブコーチ研修の視察のため、BangkokやSupuhanBuriなどを訪問してきました。

タイにおける障害者の雇用義務は、労働省及び社会開発・人間の安全保障省が所管する『障害者エンパワメント法』の第33条で、『障害者のエンパワメントに資するため、雇用主・自営業者・政府機関は職場における雇用のうち適切な割合(100人に1人)の障害者を雇用し、適切なポジションで働かせなければならない』とされているものの、雇っていないところについては、納付金『一律300バーツ(最低賃金)×365日×障害者雇用不足人数=1人当たり年間109,500バーツ』を納める義務が発生します。しかしながら、タイの現状は約20,000人分が納付金として対処されているとされ、その額約22億バーツ(現在のレートで日本円に換算すると約100億円)にもなります。この現状からみても、障害者雇用そのものが進んでいない様子も伺えます。

7月31日

タイでのJC養成研修を取りまとめているSuji n氏のアテンドで、タイ国内で積極的な障害者雇用を取り組まれている「MK Restaurant Group」に訪問し、素晴らしい実践の数々のプレゼンテーションをお伺いさせていただきました。

MK Restaurant Groupは、従業員約18,000人のうち200人以上の障害者雇用をされている、タイ国内でも先駆的な障害者雇用モデル企業の1つであると感じました。



ご説明いただいた、CBDO兼CHROのWeera Owaritkul氏は、「他の企業と自社を比較するつもりはないが、数字上は勿論、ただ雇い入れするだけの障害者雇用ではなく、障害者雇用の必要性を説く社員教育の体制、全ての社員と社会活動に参加する取組み、また社内における独自の技能オリンピックの企画開催、職場定着のためのインタビューサポートの仕組みなどを積極的

に導入・実施し、障害者の働くモチベーションの向上に努めています。」と話されていました。私見ではありますが、何れの取組みも他社と比較し評価されるべき活動であると思われました。そしてWeera Owaritkul氏は「障害者の採用について、今後は知的障害者や発達障害者の採用を進めていきたい(現在は、雇用されている障害者のうち約70%が身体障害者=聴覚障害者)」と話されていました。タイ国内の障害者雇用がより発展するためにも、このようなモデル企業が増えることを願いたいものです。

8月1日

車で移動すること約2時間の場所で、すでにタイ国内で実施したジョブコーチ基礎研修修了者を対象とした、アドバンス研修を3日間実施(私自身は初日1日だけのアドバイザー)するとのことで、その研修の様子を視察させていただきました。



対象となる受講生は全て教員ということで、タイ国内では就労支援に関連する機関がほとんど存在しておらず、地域に点在している学校が、障害者の職業訓練的な役割を担っているのが現実とのことでした。そこで、教員の皆さんを集

めて研修を実施しているということの様でした。また、今回タイで実施するこの養成研修は、本来はタイ国内の何かの助成金を活用して開催するための申請をしていたものが、何らかの理由で承認されなかったことから、Sujin氏自身が予算を捻出しての開催ということでした。ということもあって、もともと予定されていたBangkokに近いホテルでの開催から、少し離れた学校を使って研修を実施した様です。この研修でトレーナーを務めている皆さんは、日本で実施したNPO法人ジョブコーチ・ネットワーク主催の職場適応援助者養成研修を受講された方々、またタイ国内で過去に行われている同研修の受講された方々が務められており、荒削りの印象はありましたが、ロールプレイでの熱の入った演技やポイントポイントでグループワークのかじ取り役をされている様子から、とても良い雰囲気の中で研修が進んでおりました。日本で開催されている同団体が実施している養成研修のエッセンスが、海外でこの様に活用されていることは、とても嬉しい気持ちになりました。受講されている皆さんにとって、実りあることを期待したいです。

8月2日

この日は、終日フリーとなり、最終日にアテンドいただくJICAからAPCDに専門職として派遣されている久野氏と合流し、タイのローカルな観光をさせていただきました。

8月3日



最終日は、APCD(ASIA-PACIFIC DEVELOPMENT CENTER ON DISABILITY)の久野氏のアテンドにより、APCDの訓練施設「CP(60+Plus Coffee by)」

事業所別
スタッフ
リレートーク
コーナー

わかお まさひら
法人代表



■入社年月
平成16年4月1日
■血液型、星座
O型、おとめ座
■趣味
巨人戦の観戦・旅行
■休日の過ごし方
仕事をこなすこと、ペットと遊ぶこと

■自己紹介
法人代表の若尾です。この業界に入ってから20年となりました。前職が15年でしたから合わせると35年…長くなりました。まだまだこの業界でやりたいことが沢山あるのですが、残りの時間が少なくなってきましたね。生き急ぐつもりはないですが、ここから更に早回ししながら、1つ1つ達成していきたいと考えています。



すがや ひさえ
法人本部・アセスメント室



■入社年月
平成18年10月3日
■血液型、星座
A型、おとめ座
■趣味
美味しいものを食べること。“限定”の文字に弱いです。

■休日の過ごし方
時々、外食やコンサートやディズニーに出かけます。
■自己紹介
法人本部で事務を担当しております。よろしくお願いたします。



おぎはら こうじ
東松山事業所



■入社年月
平成27年4月
■血液型、星座
A型、うお座
■趣味
アウトドア全般
■休日の過ごし方
農作業、ウォーキング

■自己紹介
自宅近くでは鹿や猿、猪の出没が当たり前、最近では熊の出没情報が毎日届き、畑では野生動物対策中です。雨にも負けず、風にも負けず、野生動物にも負けず、仕事にも負けず、そういうものにだけはなりたい…。

活動報告

JC-NET発達障害就労支援セミナーinさいたま が開催されます

公益財団法人キリン福祉財団助成・NPO法人ジョブコーチ・ネットワーク企画の「発達障害者の就労・雇用支援技術」を学ぶ研修が、本年度「さいたま」で開催の運びとなりました。本セミナーは、実践型の演習を中心にプログラムを構成しており、発達障害者等への就労支援において、必要不可欠といわれる「認知特性の理解」や「就労アセスメントスキル向上」のポイントが分かりやすく学べます。また、本年度開催プログラムは企業担当者の視点に立ち、職場で良くある雇用管理上の課題を「発達障害＝認知機能の特性や特徴」から理解することに焦点化し、「働く場で起きている感情のもつれ」につながらないための具体的な対応策や必要な配慮の提供に向けた職場の準備、また障害者雇用担当者のメンタルサポートの視点など雇用管理における対応方法を中心に、これまでの内容を一新しての提供となります。